



東京多摩プロバスニュース

第 87 号



■事務局: 〒206-0021 東京都多摩市連光寺 3-31-3 滝川方 ■編集・発行: 広報委員会 2019. 11. 6.

■電話・FAX (042) 372-2238 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

共に学びながら、高齢化社会に貢献しよう

第 183 回 定例会

日 時 : 令和元年 9 月 4 日 (水) 午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館 第 2 学習室

出席者 : 24 名(会員数 28 名)

第 184 回 定例会

日 時 : 令和元年 10 月 2 日 (水) 午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館 第 2 学習室

出席者 : 22 名(会員数 28 名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする



ごあいさつ



「人のためは、自分のため」

多摩プロバスクラブに入会し早や 5 年が経過しました。新しい出会い、悲しい別れもあり、81 歳になったので少しは楽な人生を歩みたい、そんな気分です。地方紙に掲載されている二人の父の教えの記事が心に留まりましたので紹介したい。

一人は甲府市生まれの武田消毒(株)創業の中村猛志さん(67 歳)の父より聞かされたのは、第二次世界大戦の終戦前後捕虜としてシベリヤの強制収容所に抑留された自身の体験談でした。酷寒の地で厳しい労働を強いられ、朝目が覚めると隣で眠っていた仲間が息絶えていたこともあった。遺体は丸太と呼ばれ、外に積まれたという。「仲間を助けなければ自分も助からない」死と隣り

秋山正仁幹事



合わせの毎日でこう悟った父は必死でロシア語を覚えた。旧ソ連軍と交渉をして暴行を受ける仲間を助けたり、仲間の為にパンをもらったりした。するとソ連兵から通訳として重宝がられ生き延びることが出来た。「人のためになることは結果的に自分のためになる」この言葉が中村社長の経営の原点となり現在も社業を発展させている。

もう一人は地方紙のインタビュー記事より。故郷山梨の風景は、片時も忘れず帰郷のたびに実家から富士山を見ると元気が出るという。山崎幸二さん(58 歳)の父の教えを紹介したい。「父は生前より三兄弟に長男は家を守れ、

次男は国を守れ、三男は人を守れと口癖のように言っていた。長男は家業の織物工場を発展させ家を守っており、次男の私は国防の道を選び防衛大学を卒業し PKO の活動で注目され、現在 25 万人の陸海空自衛隊のトップの総合幕僚長です。三男は人を守る医師となり活躍中です」

私も三人の子供の父です。三人三様どのように父を思っているか考えさせられる記事には間違いありません。

最後に、賢者の名言より(米国エマーソン)「人を助けることは自分を救うこと」を紹介します。



一本杉橋；尾根幹線を跨ぎ、落合団地 4 丁目と一本杉公園をつなぐ

◇◇◇ 幹事・委員会報告 ◇◇◇

1. 幹事報告

秋山正仁幹事

1) 活動報告

・10月2日の定例会は北村克彦会長の進行で、テーマ「これからのプロバス」で自由座談会を行った。
様々な意見、提案等が出て今後の活動に活かしていきたい。
詳細P2,3参照

2) 会員構成(敬称略) 令和元年10月2日現在

・会員 28名(内休会3名 大澤亘、所敏行、中村昭夫)

3) 全日本プロバス協議会総会に向けて

・2020年8月8日(土)、青森県五所川原市にて開催予定。
横濱プロバス倶楽部と合同でツアーを組みたい。

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

滝川道子委員長

1) 10月例会出席者数 現会員25名中 出席者22名、欠席者3名

2) 自由座談会

目的と狙いは、新会員を交えて会員相互のクラブに対する認識の共有にあります。

3) 備品 ・封筒大小が変わります。プロバスクラブロゴマークがひと周り小



総務委員会の皆さん

さくなりました。

・新たに「録音収集機」を購入。皆さんでご利用ください。

2.2. 研修・親睦委員会

滝川益男委員長

・9月26日(木)、バスツアー「東京ベイゾーン見学会」を実施し、視察船「新東京丸」で東京湾を一周、東京ビッグサイト「国際福祉機器展」を見学、五輪聖火台予定地「夢の大橋」と「新国立競技場」を經由・遠望しました。参加者21名
詳細P4参照

・次回バスツアーの時期と場所を検討中です。

2.3. 地域奉仕委員会

澤雄二委員長

1) 9月14日、アフリカ外交団と多摩市民との国際親善サッカー大会、大成功でした。10数名の大応援、感謝致します。
2) 9月20日、乞田川調査、高村弘毅副会長以下7名で実施しました。次回予定の10月25日は雨天により中止。
3) 9月18日、ボランティアセンター連絡会に上田清会員が出席。
4) 10月1日の赤い羽根共同募金に6名が参加。10月12日は台風により中止。

2.3. 広報委員会

登坂征一郎委員長

1) プロバスニュース第87号を11月6日定例会に発行。
2) 当クラブホームページの更新は11月7日予定。
3) 寄稿について；趣味、私の故郷、多摩の私、旅行記等々大歓迎です。よろしくお願ひします。

◇◇◇ 新入会員紹介 ◇◇◇

◇阿部華歌氏

阿部さんと最初にお目にかかったのは20数年以前のことかと思ひます。その時の印象は宝塚歌劇団の卒業生かと思ひました。その後しばらくお会いしていませんでしたが、あるお店で会った時、プロバスで活動して頂ける、信頼できるプロバスの宝になる方だと感じお勧め致しました。現在と現在までの履歴は下記の通りです。：元警察友の会員、元多摩グリーンロータリークラブ、元地連自衛隊会員：大日本茶道学会教授、松藤斎正心古流いけばな教授、箏曲生田流 現職：配膳派遣業務等。
(飯作金彦会員記)



お人柄から信頼も抜群で多摩プロバスクラブに有っては、今後素晴らしい活躍をされる方と期待しております。尚、現在の役職は以下の通りです。東京飛火野パスト会長、多摩市社会福祉協議会、町づくり委員会、地域福祉委員会、多摩市自治会連合会会計監査、連光寺本村自治会会長、神明山高西寺代表世話人等。
(飯作金彦会員記)

◇小林務氏

1941年2月2日生まれ、京王電鉄(株)電気他関連会社企業に出向、在職42年。出身は大月市生まれ、高校生の時には毎朝5時に起きてJR初狩駅より甲府工業高等学校へ通学。ラグビー部のキャプテンとして全国大会や国体に出場した。現在は創立101年の母校の東京同窓会長として10年以上活躍しております。また、地域の各サークルの中心的な存在でもあります。お住いの日野市では防災活動のリーダーでもあり忙しく、楽しい毎日だと聞いております。
(秋山正仁会員記)



◇小島明氏

小島明氏とは30数年親交が有りお互い切磋琢磨し、お付き合いが続いております。30年前に創立した東京飛火野ロータリークラブのチャーターメンバーであります。電気関係の職業柄数字に強く、



◇◇◇ 自由座談会 ◇◇◇

10月2日の第184回定例会において、「これからのプロバス」というテーマで自由座談会を開いた。以下はその様子をまとめたものです。
(鈴木泰弘会員記)

北村会長；この自由座談会の目的は新しい会員を迎えて会員相互のクラブに対する認識を共有し、これからの活動

について皆で考えていくこと、お互いを知り共に学び共に活動の幅を広げていくことです。まず新会員の方に入会のきっかけやプロバスの印象、抱負をお聞きしたい。

飯作会員；秋山さんの紹介で入会しました。日野ロータリークラブに長年入っており、22年前多摩に転居したので地

元に恩返ししたいと。

阿部会員；日野の法人会とロータリーで一緒に飯作さんに熱心に勧誘され、素敵で女性がいらしたので入会しました。7人の孫も手を離れ、社会に復帰し勉強する機会が欲しいです。

松山会員；整骨院を経営しており、お客様の所敏行氏が来院のたびに「プロバスという良い会に入ったよ」とおっしゃっていました。地域社会の笑顔、健康のためになることをしたいです。

小島会員；私の紹介者は飯作氏です。東京飛火野RCで30年、地域の奉仕をし商工会や自治会にも関係しているのだから学ばたい。

小林会員；甲府工業高校の先輩秋山さんの紹介です。50年来の日野市民だが、多摩市のことも知りたいなと。今ラグビーで盛り上がっていますね、私も高校ではプロップで全国大会や国体に出ました。早稲田に行く積りでしたが大西監督から「君の体格では推薦入学は無理だ」と言われ、ならば一般入試でと思いましたが結局ダメで・・・ケイオウに入りました・・・京王電鉄です。(うまい!笑い) 入会して何ができるか体力で勝負します。

北村会長；自由討議に入りますが最初に4つの理念を読み上げます(P1に掲載)。またこのような話し合いは、3回ほどしました。資料を参考にしながら、皆さんの現状認識を伺いたい。阪東さんいかがでしょう。

阪東会員；補聴器で半分しか聞こえていないのですが、定例会に出席したら必ず声を出しましょう。誕生祝いで歌うだけでは足りません、こんにちは・ごくろうさんなど一声出すだけでも雰囲気が変わりますので場を作りましょう。

飯作会員；プロバスソングですが… RCでは最初に歌います。すると声が出て明るくなります。多摩プロバスソングは良い歌詞ですし、最初に歌いましょう。

阪東会員；賛成！

増山会員；卒業式みたいでいいね。

伊藤会員；ラグビーが大盛り上がりですが、それにはメディアの力が大きいと感じます……。SNS・インスタグラムなどを活用し、会員相互や国内外のプロバスとも交流できればいいと思います。

滝川道子会員；プロバスかるたの印刷をしてくれた高治社長が言うには、このかるたは素晴らしいと。デイサービスに寄贈したが、そこでは机に置いてかるた取りをするのに、車イスが邪魔で札を取れないと。そこで高治さんはそれをA4に拡大印刷し、札に番号を付けてボードに貼り、番号でかるた取りをしているのだそうです。山田さんの絵が素晴らしいし、多摩を詠んだ歌は親しみやすく「ここは知ってる、ここは行ったことがある」と盛り上がったそうです。もっと多摩に普及させるべく5年後の20周年記念事業にならないでしょうか。プロジェクトを作って検討したい。

鈴木達夫会員；「多摩プロバスかるた」が消えるのはもったいない。



「自由座談会」風景

山田会員；実はこれに関連したことですが、来年改修のバブルノンで改修前に「地域の宝物」展をやる企画があります。これに「多摩プロバスかるた」を推薦しようかと。かるたは多摩市民の老人(失礼!)が作った地域の宝物じゃないかと。

滝川道子会員；理念の②老人の生きがいを、楽しさを提供するという理念に合いますね。

山田会員；制作した時は、学校ははじめ数多く配ったが使われていないのですかね。

登坂会員；使い方、遊び方などストーリーを作って現場で説明していきましょう。お互いを知るために、皆さんの履歴・趣味、ふるさとや住んでいる処の自慢、私の一品などをニュースに載せたい。

北村会長；サークル活動を(前はグルメ・釣り・サイクリングなど)遊びだけでなく会員相互に知り合う機会になるので作りたい。

飯作会員；会員を増やす策を委員会で検討しましょう。また華やかにするには1/3は女性会員を増やしたい。

滝川益男会員；多摩プロバスクラブと言っているが、もっと近隣に範囲を広げていこう。

松山会員；入会してから、このプロバスが楽しいと感じ始めたのは皆さんのことを知ってからなのです。例えば阪神タイガースが3位になった時 神谷さん(虎キチ)今夜のビールうまいだろうなど。お互いを知るために、定例会で30秒位ずつ「先月の私」みたいな話をするのも良いかと。

阪東会員；松山さんは新人かと思っていたが、古株になっちゃいましたね。私が平均年齢を上げていますが若いっていいですよ。

澤会員；阪東先生は希望の星ですよ。阪東さんがお元気なので皆頑張っているんですよ。

阪東会員；そんなこと言われるとビールおごらなくちゃいけないわね。(大笑い)

澤会員；楽しみにしています。(笑い)

北村会長；この続きは次回以降にしますが、大変盛り上がったこの雰囲気を大事にしていきたい。ここに下記の検討事項を確認し終わります。どうも有り難うございました。

【検討事項】

1. 皆が声を出す、話をする会にしたい。(ex. プロバスソングは最初に歌う、30秒位ずつ全員が話をする)
2. 多摩かるた活用プロジェクトを作る(20周年に向け)
3. サークル活動を活発にしよう
4. 会員増を考える委員会を(年齢、地域に拘らず女性を)

◇◇◇ 卓 話 ◇◇◇

私のゴルフ人生

ゴルフ歴 48 年、30 歳で始める。最初にゴルフプレーを行ったのは、福島県の名門「白河高原カントリークラブ」設計富沢誠造(コースレート 71.5)一泊のゴルフ旅行でした。お風呂は天然温泉で歌手の藤山一郎氏と挨拶ができて、この初打ちは忘れることはありません。

飯作金彦会員



最初にメンバーになったのは、GMG 八王子ゴルフ場、当時西コースは今とは違いクラブバスでの送り迎えでした。その後ピーク時は、東京よみうりカントリークラブ、よみうりゴルフ倶楽部、東京国際ゴルフ倶楽部、富士河口湖ゴルフ倶楽部、清川カントリークラブのメンバーでしたが処分し、現在都留カントリー倶楽部、相武カントリー倶楽部のメンバーで、都留 CC は月 1 回、相武 CC は毎週プレーを楽しんでおります。ゴルフはルールが厳しく特に服装は名門といわれるゴルフ場程正されますが、私は心良く思っています。年齢と共に歩くことの少なくなるのを、ゴルフは全身を使い歩きそして技と頭を使ってホールを上がりますが、

今では飛距離が落ちパーオン出来るホールが少なくなりました。ちなみに一時は HD(ハンディキャップ)5 から、今は HDC11(相武 CC)で競技に出ています。

ゴルフが趣味となったことは、健康の維持、友人、知人とのゴルフ談義コミュニケーション、そしてゴルフクラブの手入れ、困ることは新しいドライバーで飛距離が出るとの「ウワサ」を聞くと欲しくなること、ゴルフには小遣いとは思えない金銭がかかる事ですが、それでもやめられず、現在までの実績として、ホールインワン 3 回、エージシュート 5 回、グランドシニア優勝(相武 CC)、グランドシニア・ゴールドシニア優勝(都留 CC)などを獲得しました。



数ある優勝カップから
写真右より;

- ・都留 CC 理事長杯
(1999 年 4 月)
- ・相武 CC グランドシニア杯
(2016 年 6 月)
- ・都留 CC ゴールドシニア杯
(2016 年 10 月)

◇◇◇ 行 事 ◇◇◇

東京ベイゾーン見学会

東京港は昔から江戸湊と呼ばれ全国から生活に必要な物資が運ばれる海運の拠点でした。現在も日々刻々と変貌しています。

小池博会員



東京都港湾局はその機能と管理状態を東京都民に理解してもらおうと視察船を長年運航しています。

今回研修親睦グループはこの視察船で来年行われるオリンピックのベイゾーン競技会場を海から見ようと言う計画を立てました。ベイゾーンで行われる競技はトライアスロン、ビーチバレー、総合馬術、ボート、カヌーです。

この視察船は各施設を東京都港湾局の OB が 1 時間のコースで丁寧に説明してくれました。



視察船 新東京丸

9 月 26 日(木)、台風の影響で心配された天候も快晴で実に快適な視察が期待できました。午前 7 時 45 分、会員 21 名を乗せたマイクロバスは桜ヶ丘を出発、高速の渋滞は半端でなくハラハラしましたが、ベテランの運転手のお陰で予定通り船に乗れました。まず豊洲市場を右に見てしばらく行くと遠方に建設中の高層選手村が見えます。そしてふ頭の役割と分類が説明されます。特にコンテナ輸送は海運の革命で東京湾はこれを積極的に取り入れた港で日本一

の取扱量を誇っています。コンテナ輸送に欠く事の出来ない赤いキリンのようなガントリークレーンが林立していました。レインボーブリッジをくぐってお台場海浜公園にそして潮風公園、さらに 22 万トン級の観光船が係留できる建設中の東京国際クルーズターミナルを左に見ながら曲がっていくと巨大な防波堤の役目を持つ新海面処分埋立て地と海の森公園が見えます、そして美しい東京ゲートブリッジを見て終点です。

東京ビッグサイトにある松本楼で昼食をしたため「国際福祉機器展」見学に向かいましたが会場が巨大すぎ、また展示が多岐に渡っていたので十分見たと言う気持ちにはなりませんでしたが多くの最新の介護機器を見ることができました。帰路はオリンピック聖火台予定地のひとつ「夢の大橋」、そして「新国立競技場」を車窓見学して帰路に着き予定通り桜ヶ丘に到着しました。



有明船着場にて参加会員一同

1. ドリームチームとの対決をオリ・パラ記念の多摩のレガシーに 2020TAMA 協議会代表 澤雄二会員

素晴らしい熱戦は「2対2」の引き分けで幕を下ろした。アフリカの外交団「ADC ドリームチーム」と多摩市民との親善サッカー大会の結果です。

アフリカチームは11カ国の大使館員が出場し、その家族とエトリア、ケニア、エチオピアの大使が応援に駆け付けました。

多摩市民チームは、公募に応じた20数人で、なんと70歳以上が4人、最高齢は79歳でした。当日の朝、初めて顔合せをしたまさに“なんとかなるさ”チームだった。試合の展開は予想通り？ぶつかる度に市民の体があちこちで飛ばされており、スピードの差もあって、前半終了時で「2対0」です。後半に入ると奇跡が起きました。「2対2」のドローに持ち込んだのです。終了後のパーティーはまさに“ノーサイド”市民とアフリカの人達があちこちでハグをし、訳の分からない言語が飛び交っていました。



戦い終えてにこやかに(写真提供:タウンニュース多摩編集室)

サッカー大会には、来賓として、衆議院議員、多摩市長、議長、都議会議員、市会議員らが参加されました。

アフリカ外交団のドリームチームとの国際親善サッカー大会は、「2020TAMA 協議会」の主催です。TAMA 協議会は、オリ・パラを契機に、市民、行政、企業、大学など多摩市が一丸となって、オール多摩のエネルギーで、多摩市をもっと元気に、そして多摩市の創生・再生を目指して設立された市民団体です。プロバスからは私以外に中村昭夫、神谷真一、堀内陽二の各会員がそれぞれ役員として参加されています。目標はもう一つあります。オリ・パラを記念して毎年開催する多摩市のレガシーとなるイベントを立ち上げることです。このサッカー大会がその目標でした。3年がかりで実現しました。毎年開催することのアフリカ側の内諾は得ています。来年はレガシーとなるイベントの基礎を確立したいと考えています。プロバスクラブの地域奉仕の活動として共々に前進させて行ければと願っています。

試合の最中にエトリア大使が「サッカーだけでなく、ビジネスチャンスも欲しい」と要望されました。「多摩市には本社や重要な拠点を置く優れた企業が多数あります。その企業と大使との会議を開いて、ビジネスの可能性についてプレゼンテーションさせましょう」と応じると、大使は「そんな会議だと全大使が参加するでしょう」と期待を示されました。実現の可否は分かりません。しかし、もし開催できれば、多摩市が得る利益は計り知れません。新しい目標に向かって頑張ってみようと考えています。また、多摩プロバスクラブの皆様の応援宜しくお願い致します。

2. 多摩市の水環境調査1

高村弘毅副会長

9月20日午前10時、大栗橋バス停集合。参加者7人で実施。参加者は澤雄二、飯作金彦、上田清、北村克彦、小池博、増山敏夫の6会員に案内人・高村弘毅である。

当日は天気恵まれ、参加者元気に乞田川の流れに逆らって左岸だ、右岸だと老人のド根性に任せて(?)上流に進みました。年齢や歩幅に関係なくノンビリと乞田川に流入する支流に注意深く診察(図の黒色参照)しながら、行動予定を胸にチャックし、ハラ時計の指示に素直に従ってアジフライ食堂に全員一致して休む場所を求めた。今回はこれで結びにして、次の機会に繋げることにした。

そこで三句:

測位計を洗う出水や乞田川

増山胡桃子

合流の土産の段丘彼岸花

竹藪の根の滴るや裏の崖



左地図: 印: 当日の調査箇所
写真下: 調査メンバーの北村・高村・上田・小池・増山・飯作の会員各位



3. 赤い羽根共同募金活動

山田正司会員

今年で2回目となる、10月1日の秋の恒例行事「赤い羽根共同募金」活動に、わがプロバス会員も大勢参加されました。多摩ボランティア・市民活動支援センター登録団体としては当然のことながら、昨年以上に多くの会員が、積極的に市内3カ所の駅前に、12時から順次分散して立たれました。多摩センターには、北村克彦、高村弘毅両会員が、予定の12日(土)は、台風19号の接近で中止となりました。

永山駅前では、1日に澤雄二、山田正司両会員が、聖蹟桜ヶ丘では、飯作金彦、堀内陽二両会員が立たれました。何処も一時間の活動ではありましたが、声張り上げて、頭を下げて、赤い羽根をお相手の胸につける作業は、いろいろな意味で、ご苦勞な作業であると実感しました。

実は初体験の私は、始めは声すら出せず、従って募金も



永山駅前にて

0でしたが、周りの方々に刺激されて前向きとなり、募金もいただき慣れた頃には終わっていました。ほろ苦くもあり、喜びもある貴重な体験となりました。

◇◇◇ 会員の活動 ◇◇◇

江戸しぐさのいろいろ(その四)

滝川道子会員

1. 江戸っ子は明るくて呑気

江戸っ子どうしの付き合いは、気の利いた大人らしい会話から始まります。おたがいに意気の合うことが「イキ」であり、雨が降ろうが槍が降ろうが明るく暮らそうとします。江戸っ子は“やる気”と“根気”があるのは当たり前。そこにもう一つ“呑気”が付いていました。陰気な目つきをすることを“陰り目思草”(かげりめしぐさ)といいますが、これは嫌われました。何事も“陽”にとらえて、めっぼう明るいのが江戸っ子なのです。



江戸っ子はとにかく元気です。そこでは「忙しい」は禁句です。「忙」という字は「心を亡くす」と書きます。「心を亡くした人」は「木偶の棒(でくのぼう)」と呼ばれて相手にされません。ですから誰に対しても「お忙しそうですね」とは言わずに、「ご多用ですね」と言われました。忙しいのは自慢できることではありません。いつも心に余裕のあることこそ、江戸っ子の理想だったのです。

さて、そろそろ「ご多用」の年末がやってきます。江戸っ子のように、余裕ある笑顔で新しい年へ向かいたいものです。

2. お年賀はサインを送る行為

現代では、11月にもなると「年賀状印刷引き受けます」なんて張り紙が目につきます。昔は直接お年賀のあいさつに出向いたそうですが、次第に近場の相手に対しても手紙になり、ハガキになり、いまではメールや電話で済ませる人も増えてきています。



江戸では年始のあいさつ状を、前の年に初めて会って何かしらの感銘を受けた相手には、必ず出しました。とりわけ商売が不首尾に終わった相手とか、不仲になった友人にこそ、真っ先に出したそうです。取りつく島がなかった相手でも、めでたい初春のあいさつは、機嫌よく受け取ってくれるかもしれません。案外、取り引き再開とか友情復活のきっかけになるかもしれません。ダメもとで試してみる価値はありそうです。これも人情の機微を知り尽くした、抜け目のない江戸商人の智慧だったのでしょう。

年に一度のお年賀は、自分自身・友人・ご先祖・御仏の四方に「自分は生きていますよ」とサインを送る行為でもありました。その心を年賀状という形にして定着させた先人の知恵は、伝承したいものの一つであると思います。

——越川禮子著『思いやりの心・江戸しぐさ』より

◇◇◇ ハッピーバースデー ◇◇◇

1. 9月に誕生日を迎えられました!



左から秋山正仁・登坂征一郎・増山敏夫・鈴木達夫各会員

各位の一言;

秋山正仁;「健康は第一の富」は米国の哲人の言葉。願いは健康!
登坂征一郎;超大型台風で初避難。防災に携わる方々に敬意と感謝
増山敏夫;「今を生きる」という言葉……これからの目標です
鈴木達夫;多摩市でオリンピックの自転車ロードレースを見よう

2. 10月に誕生日を迎えられました!



藤崎喬子会員

一言;夢の通教3年目、年内に残る提出レポート11通、confusion!

通教=通信教育経済学部の大学生

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

平安絵巻「即位礼正殿の儀」には目を奪われました。政治色のない皇室外交にも清々しさを覚えました。平和を祈念する姿勢がぶれないのも素晴らしいことです。

さて第87号も記事の内容充実です。

○冒頭の「ごあいさつ」秋山正仁幹事。地元紙に載り、感銘を受けて二つの記事の紹介。いずれも「父の教え」を守った同郷人の人生が語られています。ご自身が三人の息子の父であることの感慨も。

○秋天を見事捉えた一本杉橋のナイスショット、草田男の名句「空は太初の青さ妻より林檎受く」を思いました。

○三人もの新会員紹介、多彩な顔触れの方々です。

○北村克彦会長肝いりの座談会。「これからのプロバス」について知恵を出し合おうと活発な発言。

○飯作金彦会員の卓話。エージシュート、数々のチャンピオンなど、並みのゴルファーには夢のような人生。

○研修・親睦委員会、東京ベイゾーン見学ツアー。企画者小池博会員の臨場感あふれるレポート。

○地域奉仕委員会、三つの報告。澤雄二会員によるアフリカ大使サッカーチームとの国際親善交流が多摩に生まれたこと、高村弘毅副会長と当クラブ会員による多摩の水環境調査勉強会、山田正司会員の赤い羽根共同募金参加の活動。

○滝川道子会員の「江戸しぐさ」、江戸っ子の四方丸く納める知恵。

○ハッピーバースデーの一言。五人それぞれの第二の人生が垣間見えます。(広報委員 増山敏夫会員記)